

32. 重症急性膵炎

◆医療費等助成認定基準◆

1 急性膵炎の診断基準

- ① 上腹部に急性腹痛発作と圧痛がある
- ② 血中、尿中あるいは腹水中に膵酵素の上昇がある
- ③ 画像で膵に急性膵炎に伴う異常がある

上記3項目中2項目以上を満たし、他の膵疾患及び急性腹症を除外したものを急性膵炎とする。ただし慢性膵炎の急性発症は急性膵炎に含める。

注：膵酵素は膵特異性の高いもの（p-amylase など）を測定することが望ましい。

2 急性膵炎の重症度判定と重症度スコア

- 予後因子① ショック，呼吸困難，神経症状，重症感染症，出血傾向，
Ht \leq 30%，BE \leq -3mEq/dl，BUN \geq 40 mg/dl（or Cr \geq 2.0 mg/dl）各2点
- 予後因子② Ca \leq 7.5 mg/dl，FBS \geq 200 mg/dl，PaO₂ \leq 60mmHg，LDH \geq 700IU/l，
総蛋白 \leq 6.0g/dl，プロトロンビン時間 \geq 15秒，血小板 \leq 10万/mm³，
CT Grade IV/V 各1点
- 予後因子③ SIRS 診断基準における陽性項目数 \geq 3 2点
年齢 \geq 70歳 1点

(1) 原則として入院48時間以内に判定し、以後、経時的に検索する。

(2) 臨床徴候、及びCT Gradeの診断は以下の基準とする。

ショック：収縮期血圧が80mmHg以下、及び80mmHg以上でもショック症状を認めるもの

呼吸困難：人工呼吸器を必要とするもの

神経症状：中枢神経症状で、意識障害（痛みへのみ反応）を伴うもの

重症感染症：白血球増多を伴う38℃以上の発熱に、血液細菌培養陽性やエンドトキシンの証明、あるいは腹腔内膿瘍を認めるもの

出血傾向：消化管出血、腹腔内出血（Cullen 徴候、Grey Turner 徴候を含む）。あるいはDICを認めるもの

SIRS 診断基準項目：1. 体温 $>$ 38℃あるいは $<$ 36℃，2. 脈拍 $>$ 90回/分，3. 呼吸数 $>$ 20回/分，あるいはPaCO₂ $<$ 32mmHg，4. 白血球数 $>$ 12,000/mm³か $<$ 4,000/mm³，又は10%以上の幼若球出現

CT Grade IV/V：Grade IVは膵実質内部不均一像が膵全体にみられるか、あるいは炎症の波及が膵周囲を越えるもの

Grade Vは膵実質内部不均一像が膵全体にみられ、かつ炎症の波及が膵周囲を越えるもの

(3) 全身状態が良好で、予後因子①及び予後因子②をいずれも認めず、血液検査成績も正常に近いものを軽症と判定する。

(4) 予後因子①を認めず、予後因子②が1項目のみ陽性のものを中等症と判定する。

(5) 予後因子①が1項目以上、あるいは予後因子②が2項目以上陽性のものを重症と判定する。

(6) 重症急性膵炎症例では、予後因子③を含めた各予後因子の陽性項目の点数の合計を計算し、それを重症度スコアとする。

3 特定疾患治療研究事業の対象範囲

急性膵炎のうち、軽症及び中等症の者は特定疾患治療研究事業の対象外とする。